

2022年度

2022年4月26日

編集・発行

青雲会(大阪大学法学部同窓会)

会長 西尾 公一



青雲会 会報

事務局

〒560-0043 豊中市待兼山町1-6
大阪大学大学院法学研究科内
TEL&FAX.06-6850-5198
E-mail ishibashi@seiunkai.net
https://www.seiunkai.net/



青雲会ホームページ

印刷 株式会社 絆コーポレーション

2022年度 青雲会総会のご案内

講演会のテーマ

「コロナ対策を振り返る」

【講師】

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授

大竹 文雄 氏

日 時

2022年7月16日(土)
午前10:30開会

10時30分～11時15分 総会

11時20分～12時20分 講演会

12時30分～14時30分 懇親会

※状況によっては延期の可能性もございます。延期の場合はホームページでお知らせいたします。

会 費

一般 **9,000円**

周年記念:7,000円、卒業後5年以内:3,000円、
学生(未入会):2,000円、学生(入会済):1,000円

(注)◎周年記念 10年:60期、20年:50期、30年:40期、40年:30期、
50年:20期、60年:10期 の会員です。

◎卒業後5年以内:2018年3月～2022年3月卒業の会員です。

ご出席の方は、会費の**前納**をもって申込みとさせていただきます。

同封の払込み用紙をご利用ください。

または、青雲会ホームページ会員専用サイトで
クレジットカード払いもご利用いただけます。

■払込み期限 6月24日(金)[必着]

会 場

大阪新阪急ホテル

花の間(総会議事・講演会) 紫の間(懇親会)

〒530-8310 大阪市北区芝田1-1-35

TEL 06-6372-6510

JR「大阪駅」、阪急・地下鉄「梅田駅」から徒歩すぐ。

TEL 06-6372-5101(ホテル代表)



大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授

大竹 文雄氏

<略歴>

1961年京都府生まれ。大阪大学博士(経済学)。大阪大学助手、大阪府立大学講師、大阪大学社会経済研究所教授、大阪大学大学院経済学研究科教授等を経て、2021年から現職。専門は行動経済学・労働経済学。格差問題の実態と原因を実証した著書『日本の不平等—格差社会の幻想と未来』で日本学士院賞、サントリー学芸賞、日経・経済図書文化賞などを受賞。著書に、近著『あなたを変える行動経済学』のほか、『競争と公平感』『競争社会の歩き方』『経済学は役に立ちますか?』『医療現場の行動経済学』『行動経済学の使い方』など多数。



❖ 青雲会会長 ご挨拶

まず初めに、コロナ禍にも拘らず、青雲会活動にご尽力頂いている役員や幹事の方々及びご支援をいただいている会員の皆様に、会長として心より御礼申し上げます。

私自身は、阪大法学部に学び、故中野貞一郎先生をはじめ優れた方々に恵まれたので、同窓会を通じて恩返しができることを本当にありがたいと思っています。

私は先の青雲会総会において、3つの方針を申し上げました。

1、「ネットワークの強化」

オンライン等新しい手段を活用した組織運営を行い、ネットワーク強化を図っていきます。昨年よりリアルとオンラインを併用したハイブリッド方式で、幹事会・役員会・プロジェクトチーム打合せを行っていますが、若手OB・OGと在学生のキャリア支援座談会など新しい企画にもズームを活用していきます。また支部ともオンラインでの相互連携等で支援を深めていきたいと思っています。

2、「親睦の強化」

ネットワークの基礎は親睦にあります。コロナ禍のなか密を避けて、屋外での青雲塾の開催や、ゴルフ同好会の復活など、可能な限り親睦を深める機会を増やし、人生100年時代の同窓会を目指します。

3、「人材の育成」

青雲懸賞論文は、昨年より法学部門と政治学・経済学部門に分け受賞者も倍増に拡充したことにより、今年も過去最高の38件の応募がありました。また、法学部門の1席は国際公共政策学科の学生が受賞し、政治学・経済学部門の1席は法学科の学生が受賞するという、学科に捉われない自己研鑽の奨励支援に繋がっていることを嬉しく思っております。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、青雲会活動に今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



会長 西尾 公一 (25期)

❖ 青雲会名誉会長 ご挨拶



大阪大学大学院法学研究科長
大阪大学法学部長

瀧口 剛 (31期)

法学研究科長・法学部長を拝命してこの春で2年目を迎えました。青雲会の皆様には、日頃より多くのご支援を賜り、深く感謝いたしております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は、一昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受けた年でした。残念ながら青雲会主催の卒業パーティーも中止せざるを得ませんでした。他方、法曹コースを法学部と高等司法研究科との協力の下で実施し初の早期卒業による修了生を出すなど、着実に諸事業を前進させることが出来ました。また、授業の方法においても対応に一層の工夫をこらした年でした。感染防止に配慮した対面とオンライン、オンデマンド授業を併用する講義の方法も慣れてきました。このようなブレンディッド教育を推進するためにWi-Fi環境などを充実させ、今年度からは法学部の教室での自動録画システムも導入しました。

2022年度より第4期中期計画の時期に入り、大阪大学は「OUマスタープラン2027」により「生きがいを育む社会」の実現をめざします。さらに今後は、大学ファンドの導入などにより大学のあり方自体に大きな変化が予想されます。社会のあり方が変わり、その中における高等教育の位置づけが大きく変化している時代です。法学・政治学系部局も新しい時代にどう対応してゆくのか、真摯に考えてゆきたいと思っています。

青雲会の皆様からも応援、どうぞよろしくお願い申し上げます。

❖ 国際公共政策学科長 ご挨拶



国際公共政策学科長
赤井 伸郎

2020年4月に大学院国際公共政策研究科長および法学部国際公共政策学科長に就任し、2年が過ぎました。2022年度の1年間、引き続き、努めさせていただくことになりました。青雲会の皆様には、いつもご支援をいただき、誠にありがとうございます。

国際公共政策学科は、2008年4月に開設され、2022年度の学生で、14期生となります。国際公共政策学科では、法学、政治学、経済学の各分野を融合する形で、社会に出た後に役立つ多様な知識を教育しております。すでに卒業した10期生までの卒業生は、この教育を活かして、日本の各地で活躍しています。卒業後に、いきいきと仕事ができる基礎的な知識作りこそ、大学教育の役割だと考えます。

国際公共政策学科には、グローバルな場で学びたいとの意欲が高い学生が多く、留学や海外での体験を目指して毎年多くの学生が海外に渡航します。しかしながら、コロナ禍においては、学生は海外に渡航することがほとんどできず、厳しい状態が続いております。一方で、全世界でオンラインの利用が急速に進み、海外でのインターンや学会への参加などは、これまで以上に容易にできるようになりました。学生時代の貴重な学びの時間を無駄にしないよう、オンラインを通じた海外交流を深める努力をしているところです。

今後も引き続き、新たな挑戦とともに、学生の能力を引き出す教育を行ってまいりますので、青雲会の皆様からのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

❖ 高等司法研究科長 ご挨拶

2022年4月に高等司法研究科の研究科長を拝命した松本和彦と申します。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

高等司法研究科は、法曹養成を使命とする法科大学院として、発足以来18年間、legal professionalsの育成に努めています。この間、教職員はもちろん、在学生たちも自らの課題に懸命に取り組んできましたが、いつも順風満帆であったというわけではありませんでした。一時、法科大学院人気低迷し、本研究科への入学者数が鈍った時期もございました。この2年間は、ご承知のように、対面授業が大幅に制約されました。

しかし、ピンチはチャンスと言われるように、試練を乗り越えようと模索してきたことが、本研究科の足腰を強くしてくれました。これは本研究科と連携してくれた多くの関係者のおかげでもあります。試行錯誤の連続とはいえ、研究科間で連携しグッド・プラクティスを共有したことで、本研究科のブレンド教育（対面とオンラインを組み合わせ合わせた授業）も実を上げることができました。入学者数も上昇し、元の水準まで回復しました。法学部と連携して開始した法曹コースも期待できるところまで来ました。

また、修了生と連携して社会に法情報を発信するという企画も遂行中です。これからも修了生にとって本研究科との連携は有益であると思ってもらえるような企画を打ち出していきます。そして何より青雲会の皆さまとの一層の連携をお願い申し上げる次第です。



高等司法研究科長
松本 和彦 (36期)

❖ 大阪大学法曹会 ❖

大阪大学法曹会は大阪大学を卒業して司法試験に合格した方と大学教員による、会員の資質向上と親睦を図り、高等司法研究科学生に対する支援団体です。

近年の司法試験は受験者数も合格者数ともに減少してきています。このような状況下でも受験生の努力や法曹会会員弁護士の支援等によって高等司法研究科からは47名の合格者、また法学部を卒業され消息が分かっている方だけでも21名の合格者を出しました。

2021年10月26日には感染症に万全の注意を払いながら2年ぶりに大阪弁護士会館にて就活懇談会、合格祝賀会が開催され、多くの合格者や会員が集いました。

現在、法曹会では高等司法研究科後援基金を通じて下記の支援を行っています。

1. 法律文書練成講座…弁護士アドバイザーによる法律文書の書き方指導
2. 修了生勉強会…未合格修了生に対する弁護士講師のグループ指導
3. 必要資金の援助…修了生に対する卒業記念品授与、成績優秀者表彰、中野賞授与
4. 合格者に対する就職活動懇談会…2021年度は多くの合格者が参加



就活懇談会風景



合格祝賀会風景

■ 2021年度 総会報告

日 時 2021年10月3日(日) 10時30分開会
場 所 大阪新阪急ホテル「紫の間」
講 演 テーマ「ウィズコロナの時代をどう生きるか」
講 師 日本生命済生会 理事長 三木 章平 氏(30期)
 日本生命病院 名誉院長 笠山 宗正 氏

2021年度の青雲会総会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の7月17日の開催予定を延期し、形式を総会議事と講演会のみに変更して、10月3日に大阪新阪急ホテルで開催されました。当日は、ご来賓の吉本健一名誉教授をはじめ、瀧口剛法学部長、赤井伸郎国際公共政策学科長、水谷規男高等司法研究科長ほか多数現職教員の先生がたのご臨席のもと、参加者44名での開催となりました。前年度に続き2021年度も懇親会は残念ながら中止となりました。

1 総会議事 (10:30-11:15)

西尾公一新会長の開会の挨拶に続き、瀧口名誉会長の祝辞をいただいたあと、西尾会長より2020年度会務会計報告があり、松本綾会計監事より会計監査報告がなされ、いずれも承認を得ました。次に、2021年度事業計画案および予算案が提出され、いずれも承認を得ました。(詳しくは12ページをご覧ください。)そのあと、新幹事4名の紹介があり、最後に、松本和彦学内幹事より大学の現状についての報告がありました。



会場全景



西尾会長挨拶



会計報告を拍手で承認



新役員紹介

2 講演 (11:20-12:20)



講師 三木 章平 氏

日本生命済生会(日本生命病院)理事長を務めておられる30期の三木章平氏及び同病院の名誉院長笠山宗正先生(80年医学部卒)より「ウィズコロナの時代をどう生きるか」という現在我々が最も関心の高いテーマでご講演を頂きました。

まず三木氏からは、日本生命病院が創設以来の「済生利民」の基本理念のもと、今回のコロナ禍においてもいち早く治療に当たってこられたこと、緒方病院や「楠本賞」に名を残す楠本長三郎氏など日本生命病院が大阪大学と深いご縁を有すること、出生率の動向から見て今後の日本人にとっては他人に頼らない老後を過ごせるようにすることが大事であるとのお話がありました。

続いて笠山先生からは、まずコロナ禍の経過や問題点、ワクチンについての医学的解説、今後の対応についてのポイントを整理して頂き、続いて少子高齢化社会とウィズコロナ時代の医療の課題についてご説明を頂きました。病気の予防と早期発見が重要であり、それがコロナ対応にも共通することを、医師として病院経営者としての知見を踏まえて軽快なテンポでご講演頂きました。

一番大切なことは、それぞれの個人の「健康でありたい」という自覚と実践であるということをお話して頂いた有意義な機会となりました。



講師 笠山 宗正 氏

青雲キャリア支援基金事業

学生支援室長 福井 康太

2021年度「青雲キャリアチャレンジ賞」

青雲キャリア支援基金活用事業として、2017年度から、「青雲キャリアチャレンジ賞」を設けています。「青雲キャリアチャレンジ賞」は、在学中に課外で取り組み、キャリア形成に向けて優れた成果を挙げた法学部生を表彰し、副賞を授与して、その成果を称えとともに、在学中のキャリア形成活動を促進することを狙ったものです。2021年度には2名の学生（1位・高橋裕汰さん、2位・高槻祐圭さん）が受賞しました。青雲キャリアチャレンジ賞が、今後、優れたキャリア形成活動の励みになるものとして広く認知されるよう、努めて参ります。



「コロナ疲れ」と学生支援

コロナ禍も始まってから2年以上経ちました。学生たちは、課外活動が制限されるなど、不便な日々を送っています。授業はある程度教室で実施されるようになりましたが、「密」にならないようにする配慮から、定員に制限があったり、暑さ寒さに拘らず窓を開けて授業が行われたり、従来と異なる学生生活を強いられています。このような中で、学生にも「コロナ疲れ」が見られるようになってきました。大学の設ける活動基準を無視した課外活動などがそうです。また、心が折れる学生の相談も受けることがありました。コロナ禍もようやく出口が見えてきたところです。学生支援室は、学生に寄り添って「コロナ疲れ」を乗り越えることを手助けしていきたいと思っています。



学生支援室長 福井康太

2021年度 法学部卒業式・卒業祝賀会は中止となりました

2021年度の大阪大学の卒業式・大学院学位記授与式については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したうえで3月24日に大阪城ホールにて行われました。

（コロナ禍以前は同日午後から行われていた法学部での卒業式は2021年度も中止となり、それに伴い青雲会主催による卒業祝賀会も中止となりました。）

卒業生および修了生の皆さん、おめでとうございます。

法学部生、法学研究科生の方は、卒業・修了と同時に青雲会の正会員となります。

今後ともよろしくお願いいたします。

青雲会の行事への積極的なご参加をお待ちしています。



“青雲塾”で

再発見!!

青雲塾担当 山西 雅人 (30期)

昨年度の開催内容は以下のとおりです。今後も、会員・準会員の皆様のご参加をお待ちしております。

<https://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

第72回 ▶ 2021年6月26日 (土)

「大阪再発見 四天王寺 界限を歩く」

時間が止まっている(あるいは止まっている様に見える)、奈良や京都の寺院とは対照的に、四天王寺を訪れると、確かな時間の流れと、お寺や参拝者の息づかいを感じます。西門の脇にある金剛組の本社ビル、境内にある近代的な学校や病院、当たり前のように日常の儀礼に使用されている亀井堂の亀石など、柵に囲まれているわけでもなく、尤もらしい学問的な説明書きが添えられているわけでもない、そんな日常に溶け込んでいる景色の中に、壮大な歴史や時代の流れが隠されている四天王寺は、まことに魅力的で大阪の宝だと感じています。上町台地に位置する周辺の史跡と合わせて、ご参加頂いた皆様に、四天王寺界限の魅力を再発見して頂ければと願い、案内をさせて頂きました。大坂城周辺に続いて、このような機会を与えて下さり、感謝しております。ご参加頂いた皆様との交流も、大変楽しいものとなりました。有難うございました。青雲会、青雲塾の益々のご発展を祈念いたしております。(舟引 康之)

舟引 康之 氏 (青雲会 25期)

大阪SGGクラブ (Osaka Systematized Good-Will Guides Club) 会長



舟引講師のご説明に真剣に耳を傾ける



あべのハルカスを臨む慶沢園にて

第73回 ▶ 2022年1月15日 (土)

「オダサクの西鶴—織田作之助の翻案の方法」

2022年1月15日、青雲塾で「オダサクの西鶴—織田作之助の翻案の方法」というお話をいたしました。新型コロナウイルスの感染状況が悪化するなかで、あまり多くの参加者は見込めないのでは、と恐れていましたが、感染対策された上で、多くの方にお越しいただきました。今回は、大阪の作家として有名な織田作之助は、より具体的には、どのような小説を書いた作家であったのか?ということを中心にお話しました。その際、やはり大阪の作家として知られる井原西鶴の「人には棒振虫同然に思はれ」という、明治大正期以来評価の高い短篇を取りあげ、この短篇を現代風に翻案した織田作之助の作品『雪の夜』を主たる題材にしました。また、オダサクの作風の特徴を明瞭にするために、同じ西鶴作品を翻案した太宰治の作品にも触れ、比較しました。90分間、長々とお話しましたが、受講者のみなさんがとてもよく反応してくださり、話しやすい雰囲気を作ってもらえました。質問をいただいて、回答するなかで、わたし自身にも発見があり、よい勉強になりました。ありがとうございました。(斎藤 理生)

斎藤 理生 氏

大阪大学大学院文学研究科・文学部 教授



講師の斎藤理生教授



講師の話に聞き入る受講者

第74回 ▶ 2022年2月26日 (土)

「銘酒『緒方洪庵』復活プロジェクト」

松永 和浩 氏

大阪大学適塾記念センター准教授

せっかくつくったNEO「緒方洪庵」でしたが、コロナ禍でアピールの機会に恵まれませんでした。そんななか、この銘酒を復活させた経緯をじっくり説明させていただき、試飲もしていただける貴重な機会となりました。出席できなかった会員のみなさまにも、阪大のお酒として親しんでいただきたく存じます。

<https://nomuraneo.wixsite.com/nomulikelove>

(松永 和浩)



講師の松永和浩准教授



試飲した銘酒NEO「緒方洪庵」

東京支部だより

東京支部長 西畑 一哉 (27期)



● 東京支部 連絡先

〒102-8336
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学
TEL 03-3261-1298
FAX 03-3261-1291

青雲会東京支部長の西畑一哉です。日本銀行勤務を経て、2015年9月から九段にある二松学舎大学に籍を置いています。

2年連続して東京支部の活動はほぼ巣ごもり状況となりました。対面型の講演が困難な中で、一昨年10月30日には、咲耶会東京支部のお力をお借りして、西畑が「日銀がデジタル通貨を発行する日」との演題でZoomによる講演会を実施しました。様々な技術革新に沿って通貨が「金属の金や銀」「金属製のコイン」から、製紙・印刷技術の進展によって「紙幣」が誕生した経緯と、今後は暗号・インターネット技術を駆使した中央銀行デジタル通貨が発行されるのお話をさせていただきました。

昨年は、東京支部の会員の方々のメールアドレス整備に注力するとともに、デジタル通信の環境整備に努力した結果、青雲会東京支部独自で、デジタル講演会が可能となりました。こうしたことから、12月4日に「右と左、どちらが偉いか」と「中国古典にみる法の支配」という2つのテーマで、西畑が講演させていただきました。日本では左大臣の方が右大臣より偉くこの左優位は奈良時代から明治維新まで続きました。中国では王朝毎に左右の優位が入れ替わり、秦や前漢や元の時代は右優位、それ以外は左優位です。西洋はローマ時代から右優位で聖書の中にも右優位の記述がみられます。また、中国古典特に司馬遷の史記にみられる法意識というか「法嫌い」を分析し、中国において「法の支配」が一度も成立したことがない

こと、現在も法の上に支配者がいて専横が行われる可能性が高いことを示しました。「法の支配」が憲法上規定されている米国と対比して、米中の対立が「法の支配」の有無という本質に根ざしているのではないかと感じたところです。今年こそは対面での総会・講演会実施を心から祈念しています。

繰り返しをお願いしておりますが、Zoomの仕様上私共がメールアドレスを存じている方にしか配信することができません。メールアドレスを登録されていない方々は、幹事長の篠崎もしくは西畑宛にメールアドレスをご連絡いただけないでしょうか。どうかよろしく願いいたします。

E-mail

篠崎:shinozaki.mitsuhiro.t8@sojitz-lifeone.com

西畑:k-nishih@nishogakusha-u.ac.jp

名古屋支部だより

名古屋支部長 中嶋 利幸 (19期)



● 名古屋支部 連絡先

〒466-0812
名古屋市昭和区八事富士見1304
TEL & FAX
052-834-0607
E-mail
tosrom314@re.commufa.jp

名古屋地区では東海地方に在住の卒業生を対象として、経済学部と同窓会と合同して『名古屋待兼会』を運営しており、60年ほどの歴史があります。会の主な活動は2,4,6,9月に例会、11月に年次総会で、名古屋市内のホテルを会場として食事と懇談を中心とした会員同士の交流を深めるという内容で行ってきました。

残念ながらここ二年間ほどはコロナ禍により休会が続いてきましたが、昨年11月に二年ぶりの総会を開催しました。ただ、できるだけ人流を抑えるという観点から、例年行ってきた母校から来賓をお迎えすることは断念して現地の会員だけで小規模に行うなど感染対策に努めて実施しました。

しかし、一時収まってきたかと思われたコロナ感染が直近でまた勢いを強めてきた状況下、2月の例会は再度、休会を余儀なくされました。今後を見通すことは難しいですが、明けない夜はありませんから、近い内に人々が自由に行き交い、大声で語り合える日が来ると信じています。我々の活動もできるだけ早いタイミングで再開する予定ですので、新しく東海地区に来られる方にも『名古屋待兼会』に入会頂き、一緒に楽しく語りたいと思っています。ご関心がおありの方は是非、名古屋支部の連絡先にコンタクト頂きますようお願いいたします。

なおこの二年の間に総会一回、例会八回が休会となったため、会の運営費に幾分余裕ができましたので、ささやかながら母校の未来基金への寄付をいたしましたことを申し添えます。

若手交流会報告

高橋 慶吉 (48期)

若手交流会の新たな企画として、OB・OGが学生と卒業後のキャリアについて語り合う座談会を開催しました。これは、OB・OGと学生が親しく、おしゃべり感覚でキャリアについて話す場が少ないという問題意識から始められたものです。メールで参加者を募ったうえで、2月と3月にオンラインで座談会を開催しました。2月の初回の座談会では私、高橋が講師役となり、大学院進学や海外留学、研究者のキャリアについて学生とおしゃべりをしました。3月の第2回座談会では、池田泉州銀行にお勤めの橋本正博さん(60期)に講師役となつていただき、金融業界でのお仕事や銀行が行う地域貢献について学生と語り合っていました。

従来、若手交流会では40代ぐらいまでの比較的若いOB・OGを対象に、講演会を行ったり、懇親会を開催したりしてきました。コロナによりそうした企画は進めにくくなりましたが、これを機会に「若手」の幅を学生にまで広げ、新たな活動をさらに展開していきたいと考えております。

OB・OGとキャリアについて話そう！

青雲会座談会開催(法学部学生支援課共催)

法学部同窓会・青雲会のネットワークを活用し、OB・OGと卒業後のキャリアを語り合う座談会を開催します。第1回は高橋慶吉・大阪大学法学部教授です。大学院進学を考えている人、海外留学をしたい人、研究者になりたい人など、ぜひ多くの方にご参加ください。



講師から一言
高橋慶吉は、法学としてではなく、OBとして学生と交流したいと考えています。

日時：2022年2月18日(金) 15:10~16:40
場所：ゼミナール オンラインでの参加可。参加希望者は、青雲会事務局 seikun@seikunai.org までご連絡ください。

講師陣
2000年 大阪大学法学部卒業
2002年 大阪大学法学部専攻科修士課程修了
2005年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2010年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2015年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2020年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了

OB・OGとキャリアについて話そう！

青雲会座談会開催(法学部学生支援課共催)

2月の第1回座談会に引き続き、OB・OGと卒業後のキャリアについて語り合う座談会を開催します。第2回の講師は池田泉州銀行にお勤めの橋本正博さんです。一般企業に就職志望の人、金融業界に興味がある人、地域貢献を志している人など、ぜひ多くの方にご参加ください。



講師から一言
大阪生まれ、大阪育ちの社会人10年目です。学生の皆さんと交流したいと考えています。一緒にキャリアについて話そうと考えています。

日時：3月7日(月) 17:00~18:30
場所：ゼミナール オンラインでの参加可。
参加希望者は、下記URLからフォームよりお申し込みください。
<https://bit.ly/seikunai2022>

講師陣
2012年 大阪大学法学部卒業
2013年 大阪大学法学部専攻科修士課程修了
2014年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2015年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2016年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2017年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2018年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2019年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了
2020年 大阪大学法学部専攻科博士課程修了

青雲会囲碁同好会のご案内

新型コロナの影響で以前のように集まれない状況が続いていますが、対策をとりながら囲碁を楽しんでいます。イベントでは他の同好会などとの対局も楽しめます。ぜひ幹事までご連絡ください。

定例会

日時:令和4年5月21日(土) 13:00~17:00

11月19日(土) 13:00~17:00

令和5年2月18日(土) 13:00~17:00

場所:梅田囲碁センター

大阪府北区太融寺町6-8 阪急産業梅田ビル5階

(日本棋院の囲碁サロンから場所を変更しています。ご注意ください)

席料:無料(青雲会から補助金が出ています)



・イベントにも奮ってご参加ください。

1月:新年囲碁会(全大阪大学・梅田囲碁センター)

8月:トーナメント大会(大阪商工会議所内:ニューコクサイ)を開催しています(別途、参加費用をいただきます)。

連絡先

青雲会囲碁同好会幹事 銭尾 正和(ぜにお まさかず)まで TEL:080-7035-9285 E-mail:tennohikarihasubetehoshi@hotmail.co.jp

2021年度 青雲懸賞論文受賞者決定



A:法学部門

1席

公4年 WONG WEI LER(ウォン ウェイ ラー)

「海底ケーブルを規律する国際法
普遍的管轄権による海底ケーブルの保護」

2席

法4年 野尻 裕貴(のじり ひろたか)

「制限免除主義は事項的免除に妥当するか
—公務員の事項的免除の範囲に関する考察—」

佳作

法2年 田頭 真穂(たがしら まほ)

「企業間取引における人権マーケティングの実施」

2021年度の青雲懸賞論文は、多数の応募の中から以下の6本が優秀論文として選ばれました。

受賞者には表彰状と賞金が授与されました。また、2022年7月16日(土)開催の青雲会総会にご招待します。

青雲懸賞論文については、新型コロナウイルスの影響で苦境にある在学生の皆さんの支援を強化する観点から、昨年度に引き続き表彰件数、賞金総額を倍増しました。その結果、昨年同様過去最多の38件の応募がありました。

〈本年度応募件数 A部門22件、B部門16件、合計38件〉

B:政治学・経済学部門

1席

法4年 井上 なみき(いのうえ なみき)

「障害者政策における「承認」の問題」

2席

公4年 鯉沼 花帆(こいぬま かほ)

経4年 谷川 翠(たにがわ みどり)

公3年 遠藤 瑞季(えんどう みずき)

公3年 佐藤 優樹(さとう ゆうき)

「使用済み太陽光発電モジュールの排出量予測と
廃棄物シミュレーション〜太陽光発電大量廃棄問題に
むけて〜」

佳作

公4年 年増 望生(とします もうせい)

「日本のユダヤ人避難民政策—1938-1942年—」

青雲会運営賛助金 ご芳名録

このたびは運営賛助金のご寄付を賜り誠にありがとうございます。

会員の皆様140名の方から、1,352,000円の運営賛助金のご寄付を頂戴致しましたのでご報告致します。
運営賛助金にご理解いただきご寄付を頂いた方々に感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。
(掲載を希望されない方につきましては掲載しておりません。)

心より感謝申し上げますと共に、引続き青雲会活動への温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

青雲会会長 西尾 公一

卒 期	氏 名	卒 期	氏 名	卒 期	氏 名	卒 期	氏 名
旧制I期～新制10期		新制17期	吉 川 直 樹	新制27期	深 川 優一郎	新制45期	嶋 津 裕 介
旧制(臨時編入)	菊 池 幸 男	新制18期	黒 田 嘉次郎	新制28期	成 地 勉	新制46期	加々山 敬 久
新制1期	米 野 元 夫	新制18期	森 内 賢 一	新制28期	松 村 聡	新制46期	木 下 威 英
新制2期	上 西 利 三	新制18期	守 屋 雅 美	新制28期	道 前 緑	新制46期	松 尾 吉 洋
新制4期	松 田 節 子	新制19期	安 藤 徹 児	新制29期	池 尻 和 生	新制47期	坂 川 雄 一
新制5期	魚 谷 博	新制19期	西 田 正 秀	新制29期	中 山 渉	新制48期	杉 山 健 志
新制6期	安 藤 弘	新制20期	金 田 廣 明	新制29期	那 須 裕 之	新制48期	高 橋 慶 吉
新制6期	井 関 一 生	新制21期～新制30期		新制29期	福 田 健 次	新制48期	邨 上 師 央
新制6期	金 出 一 郎	新制21期	小 野 雅 裕	新制30期	稲 嶺 一 夫	新制49期	本 宮 亜希子
新制7期	有 田 豊	新制21期	総 山 哲 男	新制30期	沖 田 拓 司	新制50期	石 野 真 岳
新制7期	田 中 襄 二	新制21期	笹 山 徹	新制30期	戸 川 恵 雄	新制50期	清 水 三 沙
新制7期	都 築 恭 子	新制22期	栗 岡 利 明	新制30期	藤 井 修 治	新制51期～新制60期	
新制7期	林 健 治	新制22期	辻 田 博 子	新制30期	三 木 章 平	新制53期	渡 邊 香
新制8期	井戸田 博 史	新制22期	深 崎 諭	新制30期	三 木 秀 夫	新制54期	向 井 大 輔
新制8期	佐々木 章 雄	新制23期	置 田 文 夫	新制31期～新制40期		新制56期	津 田 創 平
新制8期	辻 本 昭	新制23期	高 原 宏 幸	新制31期	永 田 朗	新制56期	松 尾 拓
新制8期	若 林 崇	新制23期	松 井 繁 幸	新制31期	瀧 口 剛	新制59期	麻生川 典 晃
新制9期	山 蔭 克 己	新制23期	松 井 直 樹	新制31期	友 田 公 一	新制61期～	
新制9期	吉 川 信 治	新制24期	藤 野 美 保	新制32期	西 田 博 昭	新制61期	坂 本 大 地
新制10期	小 泉 靖 雄	新制24期	梅 原 保	新制32期	下 村 眞 美	新制63期	藤 本 和 弘
新制10期	小 浜 正 幸	新制24期	岡 本 靖	新制33期	紀 藤 正 樹	新制64期	後 友 香
新制10期	竹 川 正 英	新制24期	片 岡 和 行	新制35期	櫻 井 美 幸	新制67期	堀 上 侑 紀
新制11期～新制20期		新制24期	鈴 木 浩	新制35期	三 木 康 裕	新制67(9月卒)期	若 林 直 子
新制11期	荒 西 宏 保	新制24期	森 宏 司	新制36期	青 山 晶 彦	大学院修了(入会)	
新制12期	白 賀 洋 平	新制24期	森 信 静 治	新制36期	平 野 昇 一	司法18期入会	石 橋 寿 夫
新制12期	古 瀬 洋一郎	新制24期	安 田 光 男	新制37期	吉 田 郁 子	(敬称略)	
新制12期	本 多 昭 英	新制25期	明 里 一 平	新制38期	河 野 裕 文	2022年3月31日現在	
新制12期	三 瀬 裕 二	新制25期	加 子 栄 一	新制39期	鬼 崎 はじめ		
新制12期	八代田 憲 司	新制25期	木 村 清 志	新制39期	珍 坂 雄一郎		
新制13期	真 野 紘 二	新制25期	常 陰 均	新制39期	寺 澤 真由美		
新制13期	山 口 勝 之	新制25期	長 井 浩 一	新制39期	森 優		
新制15期	小 林 克 彦	新制25期	西 尾 公 一	新制40期	杉 峯 景 子		
新制15期	田 中 嘉 彦	新制25期	舟 引 康 之	新制41期～新制50期			
新制15期	林 宏 中	新制25期	細 井 正 弘	新制42期	麻殖生 光 弘		
新制15期	原 田 雅 男	新制25期	山 本 貢	新制43期	椋 本 和 孝		
新制16期	松 井 英 樹	新制27期	篠 崎 光 宏	新制43期	森 佳 輝		
新制17期	松 本 收 司	新制27期	中 村 佐知大	新制45期	上 地 浩 之		

「street-smart」

共栄法律事務所 パートナー 弁護士
 関西学院大学大学院司法研究科 教授
 大阪大学大学院高等司法研究科 招へい教授
 オカダアイヨン株式会社 社外監査役

稲田 正毅 (46期)

「先生、book-smartな弁護士はいらない。僕が求めているのはstreet-smartな弁護士だよ。」僕が弁護士になって5年くらいの若かりし頃に、依頼者である会社経営者から言われたことである。その経営者は、一代で事業を急速に拡大させた現場叩き上げの立志伝中の人であり、また、バブル崩壊後の後遺症で会社を清算しつつ、再び新規事業に情熱をささげている方であり、当時の若く初心な僕からすると伝説の男であった。「法律解釈、判例との整合性、想定される論点などの御託を並べるのは時間の無駄。『解決』をしてくれ」というクレームだったのだろう、その発言の意味に気付き、依頼者に最善の結果を得るべく必死に考えて事件に対応した。

その10年くらい後に、「先生、SUITSというアメリカのテレビドラマを見て欲しい。僕が求めていたstreet-smartな弁護士がでてくるよ。」と言われたが、プライベートで弁護士ドラマを楽しめる心理的な余裕はなく、いずれ見ようというまま、さらに5年以上が経過した。そして、弁護士23年目に入る2022年によくSUITSを見た（移動中でもどこでも視聴できるスマホとAmazonプライムビデオのおかげである）。僕なりの解釈では、弁護士は、book-smartを前提に、street-smartであることが重要だと感じた。

book-smartは経験に関係なく努力で何とかなる。street-smartは、何よりも多くの経験、しかも内容の濃い経験とその経験を活かす意識と知恵が必要だ。若手からすると、経験年数だけは絶対に年長者には勝てない。僕自身は、窮境状況にある企業の事業再生やM&Aでの現場を得意としており、これまで多くの得難い現場経験を体験した。これからの弁護士としての活動は、street-smartを意識して、さらに内容の濃い経験を貪欲に積んでいきたい。

ふと、阪大法学部出身者には、street-smartタイプの素晴らしい方々が多いと気づいた。身近で例をあげると、僕が10年ほど前から社外監査役を務めさせていただいている上場企業の代表取締役会長（荻田俊幸さん・75年卒）や常務取締役（前西信男さん・84年卒）がそ



うである。いずれの先輩も住友銀行ご出身という経歴に相応しく（笑）、street-smartタイプらしい経験に裏付けされた調整力や問題解決力には、毎月の会議で感心させていただいている。ただ、street-smartと見せているのも、実はbook-smartが前提にあるのではないかと睨んでいる。

同じ法曹界にも、阪大法学部出身者にはstreet-smartタイプの先輩方が多い。

若手からすると、熟練の先輩方が有するstreet-smartとしての濃い経験を、後輩に披露し伝授いただく機会がより多くあってほしいと願っている。後輩にとっては、得難いエッセンスを疑似体験させていただき、手取り早い成長の機会である。ただ、阪大法学部出身者は控えめな方が多く、阪大法学部出身者であることは「知る人ぞ知る」情報であることが多い。そのような多士済々の阪大法学部出身者の先輩方を掘り起こし、世代を超えた交流、コミュニケーションの場を、この青雲会で提供することができないかと考えている。とりわけ、コロナ禍により、対面で、楽しく懇親しながらのコミュニケーションの機会が少なくなっているからこそ、このようなコミュニケーションの機会と場を提供することを、是非とも実現したい。

活躍する卒業生 II

阪大の御縁に感謝!

外務省中国・モンゴル第一課課長補佐 小野 誓子 (48期)



乗り慣れた北京便を降り、羽田空港でニューヨーク行きのフライトを待つ。これは、2018年夏に在中国大使館から国連代表部に赴任した日のこと。外務省に入省して20年余り、そのうち8年を北京で過ごした私にとって、ニューヨークへの転勤は夢のようでした。

実はこの国連代表部での勤務、阪大との御縁抜きに語ることはできません。当該ポストは阪大法学部の先輩から引き継ぎ、2年間の代表部勤務では星野俊也教授と御一緒させていただく栄誉にあずかったのです。

外務省の中国語専門職として、対中外交の最前線である北京の大使館で勤務できることは大変名誉なことです。同時に、外務省で勤務する以上、中国以外にも視野を広げたいとの思いも強くありました。そしてある日、省内の公募制度で国連代表部のポストが公募対象になっていることを発見。しかし、それまで国際機関に関する業務の経験がない私にとって、このポストに手を挙げることは大きな挑戦でした。そこで、当時国連代表部に勤務されており、阪大国際法学研究会の1期先輩である水元康治先輩に思い切って連絡してみたところ、なんと公募の対象となっていたのは水元先輩のポストで、仕事は大変だがやりがいがあることなどを詳しく教えてくださいました。私は先輩に背中を押されて公募ポストに応募し、縁あって国連代表部に赴任することとなりました。

ただ、私がニューヨークに着任する前に水元先輩は次のアフリカの任地へと向かわれることとなり、業務の引継ぎは北京-ニューヨーク間の電話で行わざるを得ませんでした。多岐にわたる業務の内容はほとんど頭に入りませんでしたが、①国連代表部には大使が3人いて、1人は阪大の星野先生であること、②着任1年目は週に一度は職場で寝泊まりするほど忙しいこと、③同僚の方々は皆親切であること、の3点を心に留め、私はニューヨークへと向かいました。

実際に着任すると、事前に聞いていたとおり、最初は国連の用語や仕組みに慣れるだけで大変で、幸い職場に泊まることはなかったものの、日付が変わってから家に帰ることもしばしばでした。しかし、星野大使を始めとする代表部の上司や同僚は大変頼りになり、各国の外交

官から日々刺激を受けながら、人権を中心とするマルチの外交について多くを学ぶことができました。星野大使には代表部員皆が熱い信頼を寄せており、阪大卒業生なのでどうこうということはありませんでしたが、厳しい仕事でしたので、大阪から遠く離れた地で星野教授と御一緒できたことは、私にとって大きな心の支えでした。特に印象に残っているのは、私が担当し、東京大会を前に日本が提出したオリンピック休戦決議について、1つでも多くの共同提案国を得るために、星野大使が190余りの加盟国の大使一人一人に連絡を取り、支持要請してくださったことです。そして、長野大会を上回る186の共同提案国を得て、同決議は採択されました。

その後私は外務本省に戻り、現在は古巣の中国・モンゴル第一課で中国との文化交流等を担当しています。国連での勤務においても日々感じたことですが、今や我が国の外交において中国が関係しない場面はほとんどなく、当課の業務も格段に増えたと感じます。

国際法学研究会の先輩方が外務省に入省されたこと、そして坂元一哉先生のゼミで学んだことがきっかけとなり、思いがけず進んだ道ですが、おかげさまで充実した毎日を送っています。



女性の人権に関する国連の会議への出席(2020年3月)

2021年度青雲会行事等報告

月	日	曜	行 事 等
2021年			
4	2	金	法学部1年生オリエンテーション(中止)
	7	水	大学院法学研究科オリエンテーション(中止)
	27	火	2021年度青雲会会報発行
	27	火	第1回幹事会(メール審議)
6	9	水	第2回幹事会(メール審議)
	26	土	第72回青雲塾(於:四天王寺ほか)
7	6	火	青雲キャリア支援基金第1回運営委員会(Zoom会議)
	17	土	青雲会総会(10月3日に延期)
9	8	水	第3回幹事会(於:大阪大学豊中キャンパス)
10	3	日	青雲会総会(於:大阪新阪急ホテル)
11	1	月	青雲懸賞論文募集開始(2022年1月13日締切)
12	2	木	第4回幹事会(於:大阪大学豊中キャンパス)

月	日	曜	行 事 等
2022年			
1	15	土	第73回青雲塾(於:グランフロント北館ナレッジサロン)
2	10	木	第5回幹事会(メール審議)
	18	金	第1回若手交流会(WEB座談会)
	26	土	第74回青雲塾(於:豊中キャンパス大阪大学会館)
3	4	金	青雲懸賞論文審査結果発表
	7	月	第2回若手交流会(WEB座談会)
	24	木	卒業式、青雲懸賞論文表彰式
			青雲キャリアチャレンジ賞表彰式
			卒業修了祝賀会(中止)

2021年度決算報告と2022年度予算(案)

(概要)

(単位:千円)			(単位:千円)		
収入の部			支出の部		
項 目	2021年度 決算	2022年度 予算	項 目	2021年度 決算	2022年度 予算
会費収入	4,939	5,300	総会費	371	1,090
懇親会収入	0	574	会報費	2,580	2,600
運営賛助金収入	1,352	1,500	ソフト保守費	495	495
その他収入	110	151	支部助成金	200	350
			ローヤリング助成金	100	100
			一般助成金	0	200
			懸賞事業費	352	380
			司法基金援助金	300	300
			塾・部活動費	80	150
			若手交流会	20	30
			人件費	671	700
			その他経費	1,098	1,130
収入 計	6,401	7,525	支出 計	6,267	7,525
(単位:千円)					
収支差額				134	0
前期繰越金				4,932	5,066
次期繰越金				5,066	5,066

※ 本案は総会でご審議いただきます。

青雲会 役員 任期: 2021年4月1日~2023年3月31日

役 職	氏 名	期	担当(*:主担)
名 誉 会 長	瀧 口 剛	31期	
会 長	西 尾 公 一	25期	
副 会 長	沖 田 拓 司	30期	・総会*・総務*・交流促進
副 会 長	〇 三 木 章 平	30期	・財務*・青雲懸賞論文*・組織強化(正会員)*
副 会 長	〇 山 西 雅 人	30期	・青雲塾*・交流促進*・キャリア支援*
副 会 長	川 村 雅 志	31期	・交流促進
副 会 長	〇 西 田 博 昭	32期	・総会・財務・組織強化(正会員)*
副 会 長	〇 稻 田 正 毅	46期	・青雲懸賞論文(審査)・財務・組織強化(正会員)
副 会 長	〇 坂 川 雄 一	47期	・若手交流会・総会
副 会 長	〇 高 橋 慶 吉	48期	・総会・青雲塾・若手交流会*
副 会 長	〇 地 神 亮 佑	58期	・青雲懸賞論文・WEB管理*・組織強化(準会員)
副 会 長	橋 本 正 博	60期	・若手交流会・キャリア支援・総会・組織強化(準会員)
副 会 長	〇 千 北 慎 也	64期	・若手交流会・組織強化(準会員)*・WEB管理
幹 事	(各 期)		
	うち特に担当を委嘱する幹事		
	西 畑 一 哉	27期	・懸賞論文審査
	松 田 邦 夫	28期	・懸賞論文審査
	末 澤 豪 謙	32期	・懸賞論文審査
	稻 田 正 毅	46期	・懸賞論文審査
	木 村 真 也	46期	・懸賞論文審査
	堀 木 由 紀	46期	・懸賞論文審査
会 計 監 事	西 村 元 昭	14期	
会 計 監 事	松 本 綾	40期	

〇 新任副会長8名

事務局

事務局 長	西 尾 光 代	30期	
-------	---------	-----	--

1 年会費納入のお願い(納入方法について)

青雲会の活動は、主として新規入会者の「入会金」と会員の皆様の「年会費」で成り立っています。かねてから皆様にご報告のとおり、ここ数年は会費の納入率が低迷し、財政状況が大変厳しくなっております。ぜひとも年会費(3,000円)の納入をお願いいたします。

「年会費」の納入方法 以下、【1】~【4】のいずれかの方法で納入ください。

- 【1】同封の「払込取扱票」(年会費専用)による納入 ※郵便局またはコンビニエンスストアで利用可能
- 【2】「クレジットカード」での納入 ※会員専用サイトの「クレジットカードでの各種入金」ページより
- 【3】「銀行自動引き落とし」での納入 ※事前に事務局への手続きの申し出が必要で
- 【4】「銀行振込」での納入 ※振込手数料は会員様負担となります

(振込先) 三井住友信託銀行 大阪本店営業部(店番号 020)
普通 2124787 大阪大学 法学部同窓会

年会費専用払込用紙(郵便局・コンビニエンスストア併用タイプ) ▶

(注) コンビニエンスストアでのお取り扱い、**2022年7月20日まで**となっております。この期限を過ぎますとコンビニエンスストアではご使用いただけませんのでご注意ください。なお郵便局でのお支払いには取り扱い期限はございませんので、2022年7月21日以降は郵便局にてお支払いください。

